未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ 6

写真や図表で見る
全農のいま

畜産総合対策部

主な事業内容
- 牛肉・豚肉・鶏肉・鶏卵や加工品の販売
- 和牛を中心とした畜産物の輸出、供給体制の拡充
- 都府県本部の畜産事業支援

国産畜産物のおいしさをお届けします

畜産販売事業では、牛肉・豚肉・鶏肉・鶏卵などの国産畜産物やこれらの加工品を消費者の皆さまにお届けする事業を行っています。販売事業はグループ会社であるJA全農ミートフーズ、全農チキンフーズ、JA全農たまごがその機能を担っています。今回は、和牛の消費拡大に向けた取り組みを紹介します。

FILE 1
和牛づくし! 球場イベント

2024年9月6日に日本ハム株式会社と連携して「一球牛魂!和牛ナイター」をエスコンフィールドHOKKAIDO(北広島市)で開催しました。「ちょっといい日に和牛をたべよう!」というメッセージの発信や、ラウンジでの和牛の試食提供を実施しました。また、招待した子どもらへ和牛弁当を提供し、将来の和牛ファン創出を図りました。球場内のブースでは和牛クイズや和牛フォトスポットを展開し、和牛づくしのイベントを行いました。

今年は、8月29日の「焼肉の日」に北海道日本ハムファイターズvs東北楽天ゴールデンイーグルス戦において、同イベントを開催します。和牛の消費拡大につながるよう、来場者に和牛のおいしさや魅力を発信します。

MVP賞では和牛サーロインⅠ頭分を贈呈

和牛弁当を提供

FILE 2
和牛で広がる笑顔の輪

子どもたちに和牛のおいしさを知ってもらい、将来の和牛ファンを創出することを目的に、「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」と連携して、2024年12月に全国45都道府県のこども食堂112カ所に約400㌔の和牛を提供しました。今後も多くの子どもたちに和牛の魅力を発信し、長期的な和牛の消費につながるよう取り組んでまいります。

全国45都道府県のこども食堂へ和牛肉を提供

FILE 3
ロサンゼルスで和牛PRイベント

2024年8月5日～7日の3日間、米国カリフォルニア州ロサンゼルスのドジャースタジアムで、和牛の認知度向上と輸出拡大を目的としたプロモーションを実施しました。約14万人の来場者に向けて全農および和牛の魅力を発信しました。プレミアムシートエリアでは和牛サーロインステーキや串焼き(約260㌔)を提供し、そのおいしさや品質の高さを体感いただきました。

今後も和牛のPR活動を通じて、日本産和牛の輸出拡大を進めていきます。

ドジャースタジアムで和牛をPR

私たちが所属する畜産総合対策部は、物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識の高まりで和牛肉の需要が低迷する中、「ちょっといい日に和牛をたべよう!」を合言葉に、和牛の消費拡大に取り組んでいます。2024年度は、エスコンフィールドHOKKAIDOでの和牛ナイターの開催、食べログ特設サイトを通じた外食需要の喚起、在米日本国大使館旧公邸レセプションでの輸出促進プレゼンなど、さまざまな取り組みを行いました。今後も畜産生産者の経営を守るため、国産畜産物の消費拡大に積極的に取り組んでいきます。

JA全農畜産総合対策部
畜産販売課
藤井 理香子さん(写真左)
2019年入会。畜産販売事業を担うグループ会社の所管や広報担当者として国産畜産物の消費拡大に向けた業務を務める。

JA全農畜産総合対策部
統轄課
畜産サステナビリティ推進室
石川 梨良さん(写真右)
2020年入会。畜産サステナビリティの推進や、広報担当者として和牛の消費拡大に向けた業務を担う。

次回は園芸部
「国産青果物の未来に向けたJA全農の挑戦」8月25日(月)掲載予定